

モニタリング手法の検討について

1. 現在のモニタリング方法

地下遺構・地上構造物・地形・景観のモニタリングについては、モニタリング・カルテ（次頁参照）を活用して観測を行っている。

現在行っているモニタリングの手法は以下のとおり。

対象	モニタリング手法
①地下遺構	目視による地表面の形状変動を観測し、保護層の状況を把握。地下遺構の保存状況については、調査地点が重なった際に遺構の状況を再度確認することで、劣化を調べる。木製構造物については、隣接する早津江川の水位変動を把握し、長期間に渡る大幅な水位低下を監視する。
②地上構造物	目視による形状変動を観測する。
③地形	目視による形状変動を観測する。
④周辺景観	記念館 3 階テラスから、河川（早津江川）、河川敷、葦原、田園空間、集落域について、展望景観の変化を観測する。

2. 課題

地下遺構については、地中に埋まっていることで良好な状態が保たれていることから、今後も地中での保存を継続することとしている。

特に、木製構造物については、より確実な保存を行うため、確認された地点付近での定期的な地下水位・水質等のモニタリングの実施を検討する必要がある。

3. 手法の検討

○地下遺構が保存されてきた環境の確認

地下遺構が保存されてきた環境を把握するため、地下遺構に影響がない地点で、地下水位の観測、水質及び土壌の分析を行う。⇒この数値を「基本指標」とする。

〈項目〉

- ・地下水位観測
- ・水質分析（溶存酸素量、イオンなど）
- ・土壌分析（ph、酸化還元電位など）

○地下遺構付近での環境変化の確認（モニタリング）

地下遺構が確認された地点付近の数値を「基本指標」と定期的に照合し、環境変化を確認する。

⇒「基本指標」と数値や傾向が異なり、地下遺構への影響が懸念される場合には、状況把握のための発掘調査も検討。

4. 今後の検討のすすめ方

今津委員の指導・助言のもと、委員会で意見交換を行いながら、三重津海軍所跡における最適なモニタリング手法の整理・検討を行っていく。